

女子大学生の心理的居場所感と学習意欲との関連

The relationship between psychological a place and learning motivation
of female university students

杉原 佳奈 磯貝 友希
(Kana SUGIHARA Yuki ISOGAI)

キーワード：女子大学生、心理的居場所感、学習意欲

Key Words : female university students, psychological a place,
learning motivation

I. 緒言

青年期は子どもから大人へと移行していく過渡期であり、身体的にも心理的にも成熟の変化が著しい時期である。青年期の発達課題として、自分自身と周囲の人間や環境について考えること、すなわち、アイデンティティの確立が指摘されている。アイデンティティを確立するためには、自分の本音を出せて、ありのままの自分が認められ、本気になってくれる人がいるような「受容される場所」や、同じ目標を持ち、一緒に成長できる人がいる「成長できる場所」が強く求められている¹⁾。

居場所という言葉は「いるところ、いどころ」(広辞苑第7版、2018年)とされ、物理的空間を意味するほか、「安心できる、居心地の良い場所」というような心理的側面を含んで使用されている。我々は日常生活において、家庭や地域をはじめ、学校、職場、自分の部屋、インターネット空間等といった複数の居場所を有している。学校という居場所に注目してみると、大学入学前の学校生活では、学級や部活動、委員会等に所属し、授業時間や休み時間を過ごすための物理的空間としての居場所を有していた。しかし、大学入学後は履修科目によって教室を移動し、その都度、ともに受講する仲間も変化する傾向にあるため、所属する学科やクラスは存在したとしても、これまでの学校生活のような固定制のある物理的な居場所空間を有する機会が少なくなったのではないかと推察する。

則定(2008)は居場所の心理的側面に着目し、物理的居場所と区別された心理的居場所を「心の拠り所となる関係性、および、安心感があり、ありのままの自分を受容される場」と定義づけしており、心理的居場所があるという感情を「心理的居場所感」としている²⁾。さらに、重要な他者に対する心理的居場所感が自己受容、レジリエンスを促す重要な要因となり、特に青年期は男女ともに、親友に対する心理的居場所感が直接的に自己受容を促すため、親友に対

すぎはらかな：目白大学短期大学部歯科衛生学科

いそがいゆき：目白大学短期大学部歯科衛生学科

して心理的居場所感を抱けることが重要であるとしている³⁾。

一方、学習意欲に関する先行研究によると、学習意欲に影響を及ぼす一因として、「学校生活の楽しさ」や「学内友人数」、「対人的信頼関係」が関与していること⁴⁾、また、「よく会話をする友人がいる」や「信頼できる友人がいる」が関与していることが明らかになっている⁵⁾。アイデンティティの確立が発達課題とされる青年期の一部を過ごす大学時代において、心理的居場所感を得ることは非常に重要であると考えられる。

そこで本研究では、前述した先行研究を踏まえ、「心の拠り所となる関係性、および、安心感があり、ありのままの自分を受容される場」とされる心理的居場所があると認識している者ほど、学習意欲が高いのではないかという仮説をもとに、歯科衛生学生の学習意欲を高めるための基礎資料を探ること目的として、心理的居場所感尺度を用いて、心理的居場所感と学習意欲との関連について検討を行った。

Ⅱ. 対象および方法

1. 対象

M大学短期大学部歯科衛生学科に在籍する2021年度に入学した1学年女子68名、ならびに2020年度に入学した2学年女子44名、2019年度に入学した3学年女子26名の合計138名を調査対象とした。

2. 調査方法

Google Formsを活用して調査用紙を配布し、回答期日を一定期間設けて回収を行った。調査は、春学期の授業及び期末試験がすべて終了したタイミングで実施した。

3. 調査項目

(1) 大学生活について

先行研究^{4) 6)}をもとに、大学生活の楽しさと学内友人の多さについて調査した。

大学生活の楽しさについては、「とても楽しい(5点)」、「やや楽しい(4点)」、「ふつう(3点)」、「ややつまらない(2点)」、「つまらない(1点)」の5件法(1～5点)で回答を求めた。

学内友人の多さについては、「とても多い(5点)」、「やや多い(4点)」、「ふつう(3点)」、「やや少ない(2点)」、「とても少ない(1点)」の5件法(1～5点)で回答を求めた。

(2) 学習意欲

先行研究^{5) 7)}を参考にし、独自に学習意欲に関する質問項目を作成した(表2)。回答は「非常にあてはまる(5点)」、「どちらかといえばあてはまる(4点)」、「どちらともいえない(3点)」、「どちらかといえばあてはまらない(2点)」、「全くあてはまらない(1点)」の5件法

による12問（12点～60点）から構成されている。本研究では、この全12問の質問から得られた合計点数を学習意欲得点として取り扱った。なお、合計点数が高いほど学習意欲が高いとしている。

（3）心理的居場所感

則定（2007）が作成した心理的居場所感尺度⁸⁾を使用した。本尺度は、「本来感（4項目）」「役割感（6項目）」「被受容感（6項目）」「安心感（4項目）」の4因子・合計20項目から構成されている。「本来感」とは自分らしくいられるという感覚であり、「役割感」は、自分が誰かの役に立てているという感覚や自分にしかできない役割があるという感覚である。また、「被受容感」とは誰かに無条件で愛されているという感覚や自分が誰かに受け入れられていて必要とされている感覚であり、「安心感」は安心してくつろぐことができる、居心地が良いといった感覚である²⁾。本研究では、「被受容感」を4項目に一部改編し、合計18項目を設定した（表1）。

表1 心理的居場所感尺度

本来感	<input type="radio"/> 〇〇と一緒にいると、ありのままの自分を表現できる <input type="radio"/> 〇〇と一緒にいると、ありのままの自分でもいいのだと感じる <input type="radio"/> 〇〇と一緒にいると、自分らしくいられる <input type="radio"/> 〇〇と一緒にいると、心から泣いたり笑ったりできる
役割感	<input type="radio"/> 〇〇の役に立っている <input type="radio"/> 〇〇の支えになっている <input type="radio"/> 〇〇から頼りにされている <input type="radio"/> 〇〇に対して、自分にしかできない役割がある <input type="radio"/> 〇〇のためにできることがある <input type="radio"/> 〇〇と一緒にいると、自分のことを、かけがえのない人間なのだと感じる
被受容感	<input type="radio"/> 〇〇に無条件に愛されている <input type="radio"/> 〇〇は、私を大切にしてくれる <input type="radio"/> 〇〇と一緒にいると、ここにいていいのだと感じる <input type="radio"/> 〇〇に必要とされている
安心感	<input type="radio"/> 〇〇と一緒にいると、ホッとする <input type="radio"/> 〇〇と一緒にいると、安心する <input type="radio"/> 〇〇と一緒にいると、居心地がいい <input type="radio"/> 〇〇と一緒にいると、くつろげる

なお、本研究では、質問項目への回答に際し、一番仲の良い人物を1人思い浮かべてもらったうえで、「よくあてはまる（4点）」、「あてはまる（3点）」、「あまりあてはまらない（2点）」、「あてはまらない（1点）」の4件法（18～72点）で回答を求めた。さらに、心理的居場所感尺度に関する質問項目を回答する際に思い浮かべた「一番仲の良い人物1人」について、誰をさすのか回答を求めた。

4. 倫理的配慮

本研究への参加は自らの自由意志に基づき実施するものであり、不参加であっても不利益を被ることはないこと、研究に使用するために得られた内容は成績評価に一切関係がないこと、結果は今後の学会等で発表予定であるが、結果の公表においても個人が特定し得るような方法をとらないことを文書に明記し、説明を行った。さらに、本研究ではGoogle Formsを活用して無記名で回答を回収するが、メールアドレス等の個人情報についても収集しないことを加えて説明した。なお、回答された質問紙の提出をもって同意とみなすことを説明したうえで実施した。

Ⅲ. 結果

質問紙を配布した138名から得られた回答数は99名（回収率71.7%）であった。回収した質問紙のうち、記入に不備のあった10名を除外し、有効回答が得られた89名（1年生41名、2年生32名、3年生16名）を分析対象とした（回収率64.5%）。

1. 大学生生活について

(1) 大学生生活の楽しさ

「大学生生活にどのような認識をもっていますか」という質問では、全体で「つまらない」3名（3.4%）、「ややつまらない」10名（11.2%）、「ふつう」44名（49.4%）、「やや楽しい」23名（25.8%）、「とても楽しい」9名（10.1%）であった。学年別の回答は図1の通りであった。

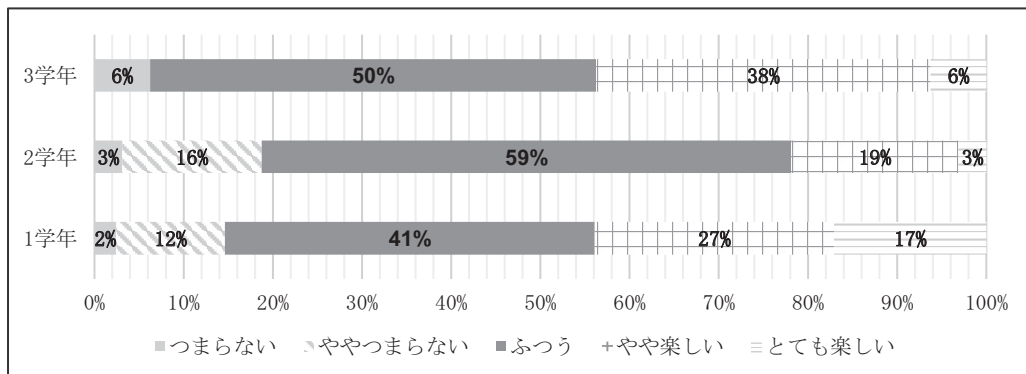


図1 大学生生活の楽しさ（学年別）

(2) 学内友人の多さ

「学内（同じ歯科衛生学科の同級生）の友人についてどのような認識を持っていますか」という質問では、全体で「とても少ない」4名（4.5%）、「やや少ない」23名（25.8%）、「ふつう」58名（65.2%）、「やや多い」4名（4.5%）であり、「とても多い」と回答した者はいなかった。学年別の回答は図2の通りであった。

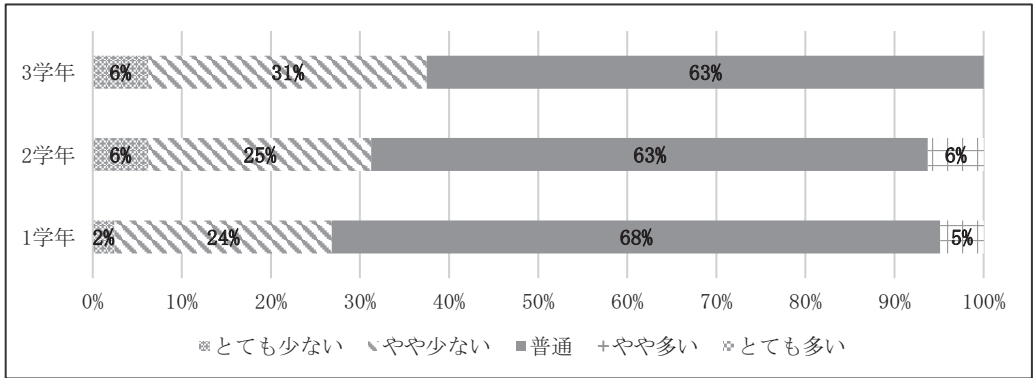


図2 学内友人の多さ (学年別)

2. 学習意欲

学習意欲得点の分布を図3に示す。正規性の検定を行った結果、本研究の学習意欲得点の正規性は母集団に対して保証されることが確認されたが、そのことを踏まえつつ分析を続行した。学習意欲得点の平均得点は、 53.62 ± 5.57 点であった。各質問項目の平均得点は表2の通りである。また、各学年の学習意欲得点を比較するために分散分析を行ったところ、有意な差は確認されなかった ($F(2,88)=0.72, n.s.$) (表3)。

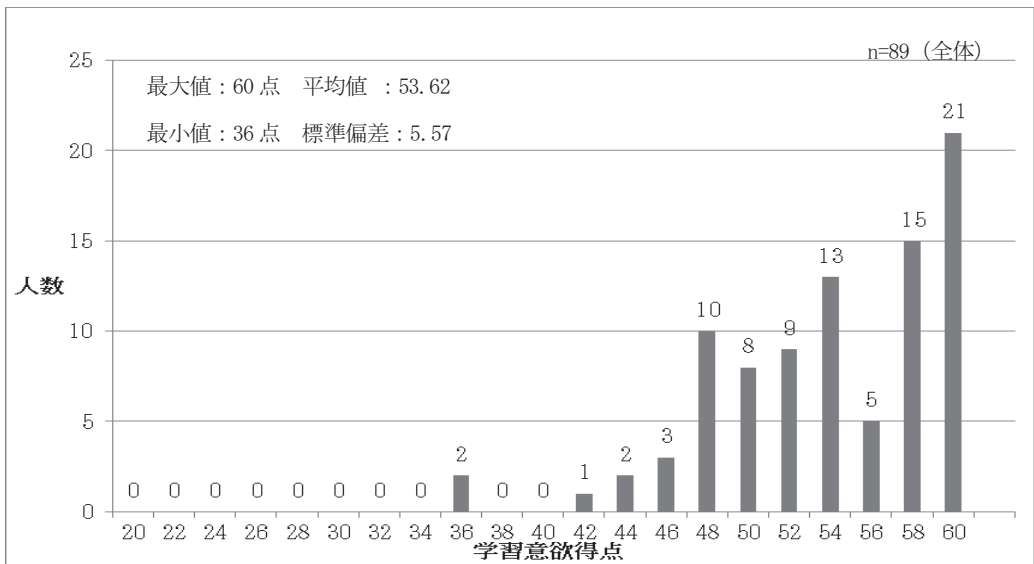


図3 学習意欲得点の分布

表 2 学習意欲に関する質問項目と各質問項目の平均得点

設問項目	Mean±SD
1 遠隔授業には遅刻・欠席しないように心掛けている	4.85±0.39
2 対面授業（実習を含む）には遅刻・欠席しないように心掛けている	4.88±0.36
3 課題は定められた期間内に提出するように心掛けている	4.79±0.46
4 履修科目の単位を取得するように心掛けている	4.84±0.42
5 授業で理解できなかったことを解決しようとしている	4.26±0.78
6 授業中は居眠りをしないように心掛けている	4.53±0.64
7 歯科衛生を学ぶことが好きだ	4.16±0.86
8 歯科衛生を学ぶことは楽しい	4.09±0.91
9 歯科衛生に関する知識を高めたい	4.52±0.64
10 歯科衛生に関して興味のあることを徹底的に調べたい	4.08±0.87
11 理想とする歯科衛生士像（モデルとなるイメージ）がある	4.13±0.81
12 周りの人から歯科衛生士として認められたい	4.49±0.68

3. 心理的居場所感

各先行研究の因子構造に従い、心理的居場所感尺度の各因子に含まれる項目の合計点数を各下位尺度の項目数で除した値を下位尺度得点とした。記述統計量を表 3 に示す。心理的居場所感の合計点数の平均得点は、63.30 ± 10.47 点であった。各学年の心理的居場所感の合計点数、ならびに各因子の下位尺度得点を比較するために分析を行ったところ、有意な差は確認されなかった。

表 3 各尺度の記述統計量

		全体 (n=89)	1 学年 (n=41)	2 学年 (n=32)	3 学年 (n=16)	分散分析結果
学習意欲得点	mean	53.62	53.39	54.47	52.50	F(2, 88)=0.72, n. s.
	SD	5.57	5.89	5.68	4.50	
心理的居場所感合計点	mean	63.30	62.93	65.06	60.75	F(2, 88)=0.95, n. s.
	SD	10.47	11.24	9.40	10.47	
因子① 本来感	mean	3.66	3.63	3.78	3.50	F(2, 88)=1.47, n. s.
	SD	0.56	0.62	0.48	0.52	
因子② 役割感	mean	3.36	3.37	3.41	3.25	F(2, 88)=0.28, n. s.
	SD	0.71	0.70	0.71	0.75	
因子③ 被受容感	mean	3.44	3.43	3.55	3.27	F(2, 88)=1.04, n. s.
	SD	0.65	0.67	0.60	0.68	
因子④ 安心感	mean	3.63	3.59	3.74	3.53	F(2, 88)=0.88, n. s.
	SD	0.59	0.63	0.52	0.62	

n. s. :not significant

また、心理的居場所感尺度に関する質問項目を回答する際に思い浮かべた「一番仲の良い人物 1 人」について誰をさすのか回答を求めたところ、全体で「歯科衛生学科以外の友人」53 名（59.6%）が最も多く、次いで「歯科衛生学科の友人」19 名（23.3%）、「母親」8 名（9.0%）、「恋人」5 名（5.6%）、「その他」2 名（2.2%）、「兄弟・姉妹」と「親戚」がともに 1 名（1.1%）であった。回答数が最も多かった「歯科衛生学科以外の友人」では、「中学時代の友人」や「高校時代の友人」と記載している者が多い傾向にあった。学年別の回答は図 4 の通りである。

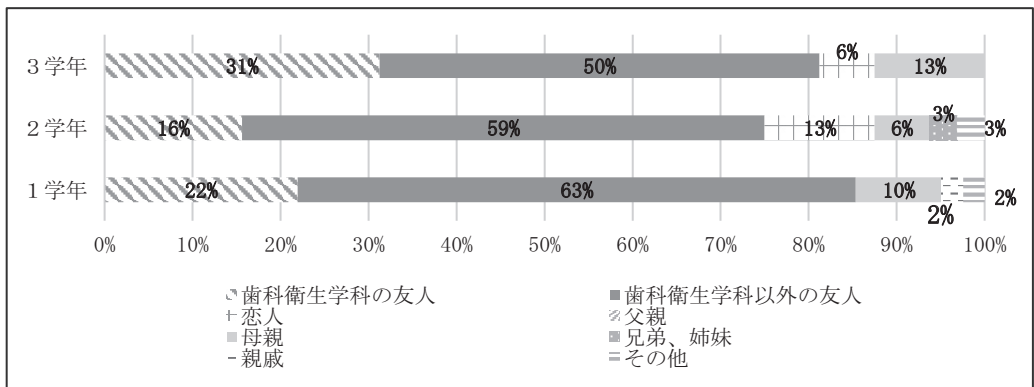


図 4 心理的居場所感尺度回答時に思い浮かべた「一番仲の良い人物 1 人」(学年別)

4. 心理的居場所感²⁾と学習意欲及び大学生活との関連

心理的居場所感の各因子と学習意欲及び大学生活との関連を調査するため、Spearman の検定を行った。なお、統計学的有意水準は 5%未満とした。

表 4 心理的居場所感と学習意欲および大学生活との相関

	本来感	役割感	被受容感	安心感
学習意欲得点	.321 ***	.424 ***	.400 ***	.290 ***
大学生活の楽しさ	-.048 n. s.	.068 n. s.	.062 n. s.	-.017 n. s.
学内友人の多さ	-.040 n. s.	-.058 n. s.	-.047 n. s.	-.061 n. s.

n. s.:not significant *:P<.05 **:P<.01 ***:P<.001

心理的居場所感の全因子（「本来感」「役割感」「被受容感」「安心感」）と学習意欲との間に弱い正の相関が認められた（表4）。心理的居場所感があると認識している者は、学習意欲が高い傾向にあった。一方、大学生活の楽しさ、ならびに学内友人の多さにおいては、いずれも心理的居場所感との間に相関は認められなかった（表4）。また、学習意欲度と大学生活の楽しさ、ならびに学内友人の多さについても同様にSpearmanの検定を行ったが、いずれも相関は認められなかった（ $r_s=.020\sim.183$ ）。

IV. 考 察

本研究では、心理的居場所感があると認識している者ほど、学習意欲が高いのではないかとする仮説をもとに、歯科衛生士を志す女子大学生の心理的居場所感と学習意欲との関連について検討を行った。尺度間の関連を検討した相関分析の結果、心理的居場所感の全因子（「本来感」「役割感」「被受容感」「安心感」）と学習意欲との間に関連があることが示唆された（表4）。また、学習意欲に関する先行研究によると、学習意欲に影響を及ぼす一因として、「学校生活の楽しさ」や「学内友人数」が関与していることが報告されていたが、本研究では関連は認められなかった。

心理的居場所感尺度に関する質問項目を回答する際に思い浮かべた「一番仲の良い人物1人」については、「歯科衛生学科以外の友人」および「歯科衛生学科の友人」と回答する者が多く見られたことから、本研究の対象者は友人との間に心理的居場所感を感じている傾向にあることがわかった（図4）。学年別に見てみると、「歯科衛生学科の友人」と回答した者は、3学年において約3割と他の学年に比べ高かった。歯科衛生学科の学生は、机上の学習だけでなく、学内での演習・実習をはじめ、学外での臨床・臨地実習などにおいて、同級生との共同作業を求められる機会が少なくない。2年次後半から約1年間にわたり展開される学外での臨床・臨地実習では、学生2～3名ずつに分かれて実習施設に配置されるため、そのことを見据え、1年次前半から開始される学内での演習・実習においては、様々な学生と交流できるよう、単元ごとにペアを組み替える等といった介入を意図的に行っている。本研究の対象者は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大を受け、感染の予防と拡大防止のために対面授業（演習・実習を含む）の実施方針や実施回数等に制限がかかり、入学当初より主に遠隔授業によって学習が進められている。さらに本来であれば、入学前に対面形式で実施していた学生と教員との交流会も遠隔での実施となり、入学直後に大学での居場所・つながり形成を目的の一つとして行う学生と教員との交流会も規模を縮小し、時間短縮をして実施したため、学生同士で交流できる機会が十分であるとは言い難い状況であった。そのため、「一番仲の良い人物1人」において「歯科衛生学科以外の友人」と回答する者が多い傾向にあったのではないかと推察する。また、3学年は他学年に比べ、心理的居場所感があると認識している者がやや低値であった（表3）。これは、学外の臨床・臨地実習中において週1日の唯一の帰校日でさえも遠隔授業となってしまったため、他の学生や学科教員と直接交流する機会を設

けることが出来なかったことが少なからず影響しているのではないかと推察する。

また、友人に対する心理的居場所感が高ければ、大学生活にストレスを感じていたとしても学校適応感は低くなりにくいこと⁹⁾、「ありのままにいられること」と「役に立っていると思えること」によって大学生は居場所感を感じることができるとされ、居場所感の高さや重要性が大学生活への適応・不適応に影響することが報告されている¹⁰⁾。先述したように、青年期は自分自身について深く考え、自分とつながっている周囲の人間や環境について考えながらアイデンティティを確立していく時期であるため、心理的居場所感に焦点を当てた支援が求められる。そのためには、大学生活において心理的居場所感を得られるように、学生同士で交流できる機会を積極的に設け、授業時間以外の空き時間に過ごせる場所を提供すること、また、そういった空間や人とのつながりの機会に関する情報を定期的に発信し、広く周知する必要があると考える。

一方、学習意欲得点の分布からは、本研究の調査対象者は高い得点傾向で分布していることが確認された(図3)。これは、歯科衛生学科の学生は大学入学時点ですでに将来の職業選択を行ったうえで入学している学生が多いことが一因ではないかと推察する。しかし、質問項目別に見ると、「自ら学ぼうとする意欲(質問項目No.1～6)」に比べ、「歯科衛生の学習が楽しい(質問項目No.7～10)」、ならびに「認められたい気持ち(質問項目No.11～12)」は学習意欲得点の平均値が低い傾向にあった。以前より大学生のバーンアウト症候群や無気力、スチューデント・アパシーが指摘されていることから、入学当初より学生が歯科衛生士の魅力を感じられ、将来の具体的なキャリアビジョンを持てるように段階的に働きかけていくことが必要となる。例えば、入学後の早期において、アーリーエクスポージャーを導入することにより、医療現場にて実際に患者様と触れ合い、スタッフとの交流を通して、選択した職業に対する使命感や医療従事者になる覚悟を抱くだけでなく、大学生活での学習意欲の向上につながるものと考えられる。

また、我が国の歯科衛生士免許は、免許取得後の更新制度がないため、免許取得後の学習の有無や学習形態は本人自らに委ねられている。そのため、学生時代から自ら自発的に、継続的に学び続ける姿勢を形成することが必要である。教員とのコミュニケーションが学習意欲に大きく影響を及ぼすこと^{11)～13)}や、友人とともに学習活動を行うことで学習の充実感が得られることが報告されている⁶⁾。歯科衛生学科の学生は、学内の演習・実習、および学外での臨床・臨地実習において小集団で学習する機会が少なくないため、心理的居場所感の獲得という点も含め、教員および友人とのグループワークやグループディスカッションから得られる影響は大きいと考える。今後は、入学当初よりアクティブラーニングを取り入れた授業をより多く展開し、学生自らが解決すべき課題を発見し、それを解決する力を身に付けられる支援が課題であると考えられる。

V. 結 論

女子大学生の心理的居場所感と学習意欲との関連について検討を行ったところ、心理的居場所感の全因子（「本来感」「役割感」「被受容感」「安心感」）と学習意欲との間に関連があることが示唆された。今後は、大学生活において学習意欲を高めるため、心理的居場所感に焦点を当てた支援が求められる。

【参考文献】

- 1) 吉川光典, 粟村昭子, 大学生におけるアイデンティティの確立について—心理的居場所との関係性から—, 総合福祉学研究, 2013,4:35-41.
- 2) 則定百合子, 青年期における心理的居場所感の発達の变化, カウンセリング研究, 2008,41(1):64-72.
- 3) 則定百合子, 齊藤誠一, 青年期の心理的居場所感がレジリエンスに及ぼす影響, 日本青年心理学会大会発表論文集, 2007,15:80-81.
- 4) 原やよい, 中島富有子, 窪田恵子, 看護学生の学習意欲に影響を及ぼす要因, バイオメディカル・ファジィ・システム学会誌, 2018,20(2):29-35.
- 5) 中下紀子, 八藤後忠夫, 大学生の日常生活が学習意欲に及ぼす影響, 生活科学研究, 2017,39:183-192.
- 6) 岡田涼, 友人との学習活動における自律的な動機づけの役割に関する研究, 教育心理学研究, 2008,56:14-22.
- 7) 野寄亜矢子, 清水佐知子, 看護師の自ら学ぶ意欲の評定尺度の作成, 武庫川女子大学看護学ジャーナル, 2019,4:25-34.
- 8) 則定百合子, 青年版心理居場所感尺度の作成, 日本教育心理学会総会論文集, 2007:337.
- 9) 迫田一城, 今林俊一, 大学生活における学校適応感に関する研究—心理的居場所感と大学生生活ストレスの及ぼす影響—, 九州心理学会第78回大会発表論文集, 2017,32.
- 10) 石本雄真, 青年期の居場所感が心理的適応、学校適応に与える影響, 発達心理学研究, 2010, 21:278-286.
- 11) 見館好隆, 大学生の学習意欲、大学生の満足度を規定する要因について, 日本教育工学会論文誌, 2008,32(2):194.
- 12) 北見倫彦, 速水敏彦, わかる授業の心理学—教育心理学入門, 有斐閣, 1986.
- 13) 作田良三, 教職履修学生の「社会人としての資質能力」, 大学教育学会誌, 29(1):146-154.